グリーン・ブリーズ 第51号
2022.April

GREEN BREEZE

写真でつながる 2021 軽井沢フォトコンテスト
グランプリ
「紅葉サイクリング」haru_papa01

春賞
「Take me home
～カントリー・ロード」
sunnydaystokyo

夏賞
「息子の夏休み」
na_mama0406

秋賞
「雲に覆われた
晩秋の浅間山」
futianmiyuki8613

冬賞
「冬の滝めぐり～凍る竜返しの滝」
mie_kichi2568p

軽井沢観光協会広報誌

Contents

1 対談 …… 2p
●ICT 時代における市場創造
2 毎月第 3 木曜日は、 …… 4p
軽井沢リゾートテレワークデイズ！
3 Ruizaちゃん!取材日記 …… 5p
●これであなたも「浅間ニア」!!
～浅間山麓一周 E-バイクの旅～
4 委員会活動報告 …… 6p
●第6回軽井沢ウエディングアワード
●第7回軽井沢 WEB検定について
●雲場池まで歩こうMap
●訪れたい軽井沢のこんな場所、あんな場所
5 軽井沢 information …… 8p
●「美しい村だより」FM 軽井沢で放送中！
●写真でつながる2021軽井沢フォトコンテスト結果報告

Contents 1

Special Interview

ICT 時代における市場創造

右：入江 真太郎氏
（（一社）日本ワーケーション協会代表理事）
中央：鈴木 幹一 氏
（信州大学 社会基盤研究所 特任教授）
左：土屋 芳春
（一般社団法人軽井沢観光協会長）
（文中敬称は略させていただいております）

近年、“テレワーク”や“ワーケーション（※1）”（以下、WFH＝Work from homeに統一）が注目されています。各地では、観光や関係人口、移住者の増加など目的は様々ですが、基本リモートワーカー（企業系、起業家、クリエーター、フリーランス、グループや家族も含め）の来訪を念頭においています。軽井沢では、2018年に全国に先駆け「リゾートテレワーク協会」が設立され、その話題性や活動などから全国的に注目される地域となり、現在民間ベースで約30の施設が利用者ニーズに応えています。今回、全国のワーケーション事情を熟知している日本ワーケーション協会の入江氏、テレワークによるまちづくり等を学術的な観点から分析する信州大学の鈴木氏を迎え、テレワーク先進地として視線が集まる軽井沢の未来像を探ります。

『両名のキャリア』

（土屋） 先ずは、WFHは時代の趨勢ですが、日本ワーケーション協会の経緯や両名の関わりについて。

（入江） 2020年7月の設立ですが、旅行会社勤務での経験からコロナ蔓延以前より生活スタイルの変化を予測し、同年1月から構想を練っていました。同時にリモートワークの必然性を各地で提唱する方々とのネットワークにより設立に至ります。現在、各地での課題解決を支援するとともに、リモートワーク等を実践している方々を公認ワーケーションコンシェルジュとして組織し、全国的な拡大を図っています。

（鈴木） 25年前軽井沢に別荘購入以来、東京の二拠点居住を実践していました。当時は携帯電話は無く、個人用のパソコンがあまり普及していない時代でしたが、リモートワークを実践しており効率性・成果は実感しておりました。前職でのクリエイティブな仕事関係では、軽井沢での散歩や温泉などで閃くことが多く、（特に創造力は）明らかに都会との差がありますね。2018年の軽井沢リゾートテレワーク協会設立直前までテレワークの体験企画を開催してきました。併せて都内で軽井沢のPRを兼ねたニーズ調査も実践し、行政、企業や個人の意識を把握してきました。そのような活動中に入江代表と知り合えたのは幸運でした。

『軽井沢の特性』

（土屋） 軽井沢町内には WFHに関する施設が多く点在していますが、民間施設が事業化しているケースが主です。WFHの先進事例では和歌山県が注目されていますが、軽井沢との違いは何でしょう。

（入江） 和歌山県等地方は主に行政が主導しています。人口減少、まちづくり活力の低下など現状を鑑み、企業誘致やノウハウの蓄積を始めました。しかし地域全体に意識醸成がなされているかは今後の課題です。一方、軽井沢は首都圏に近く別荘文化が成熟しているため、自身のライフ・ワークスタイルを確立している方が多く、さらに WFHは自然の成り行きだと感じます。

（土屋） 軽井沢は企業が主で発展しています。行政が WFHを始めるところは企業研修や社員の利用が主で、軽井沢ではフリーランスや個人利用のイメージが高いですね。

（入江） WFHが社会基準になると地域格差や性格により違いが大きくなると思います。自治体の支援により移住や WFHを進める人、起業や社会関係を築く傾向もありますが、WFHの注目は2～3年ですので、真価はこれからとなります。

（土屋） WFHでも移住でも、教育、医療、福祉、サービス業などの社会インフラの整備度合いにより選択するケースがあるかと思いますが。

（入江） 現代的なノマド文化が着目されているように、地方移住ではクリエイターなどのフリーランスや働く場所の多様化が認められ、個人がライフスタイルを選択してるように感じます。地方の活性化事例では長崎の離島があります。人が人を呼び、現在長崎県内からも様々なプレーヤーが集まりコミュニティーやイノベーションが始まりつつあり、他の地域へも影響しています。

『WFHの市場性』

（土屋） WFHは社会インフラの一つですが、今後の市場性・若者の意識変化・本質はどうでしょう。

（鈴木） Z世代と言われている現在10代の学生は早い段階からパソコンに触れインターネットが当たり前の環境で生活しています。彼らの柔軟な学びは、社会進出においても柔軟に働ける企業を選ぶでしょう。そのような制度が確立していない企業は避られることは容易に推測できることから、企業側も柔軟な働き方の制度導入が急務です。ただ固定労働制が定着している大企業の場合、制度面には時間がかかるでしょう。先ずは裁量労働が出来る企業経営者、個人事業主、裁量労働が認められている業種のワーカーから広がっていくと思います。岸田政権では「新しい資本主義」という概念や、「デジタル田園都市国家構想」などが提示され、これから本格的に地方重視の時代になると期待が高まっています。同時に以前よりあった東京一極集中の是正がここにきてクローズアップされてきました。地方人と都会人との関係性とか、刺激し合い、どのようにイノベーションを誘発させるかとか、これからの時代、正に人々の交わりを重視した国家形成が重要だと思います。ワーケーションには、砂浜や山の絶景や森の中でパソコンをやっている写真をよく見ます。イメージの独り歩きにより自然環境豊かな場所でのワーケーションが誤解を生じさせているかもしれません。しかし、ワーケーションの本質は人生100年時代が叫ばれる中、豊かなライフスタイルを実現する為に、様々な生き方・ワークスタイルが有る。その一つが WFHです。それを実践していけば、地域が活性化し、最終的に人々の幸せ（ウェルビーイング）に結びついていくでしょう。人と人の交わりから生まれる新価値創造、地域活性化、ウェルビーイングの実現が WFHの本質ではないでしょうか。

（土屋） テレワークは都市戦略の一ツールですが働き方や生き方改革のWFHの変化はどうでしょう。

（入江） 各自のコミュニケーション能力の濃淡により地方選択や個人にとっての WFHの価値が変わります。また、地方の許容量・力量も関係してくるでしょう。とは言っても基本的には都会育ちの地方移住欲求は高い傾向にはあります。

（土屋） 軽井沢は江戸時代から主要街道の宿場で、明治以降避暑地・別荘地として発展してきた経緯もあり、外部との交流により文化を築いてきました。そのような意味では住民においても他の文化や人を受け入れやすい土壌があります。そこは一つのキーワードですね。

（鈴木） 地方への移住も変化を感じます。以前はリタイヤシニアや都会生活の疲労からの移住が多い傾向でしたが、現在は自己実現のためのポジティブなライフスタイル移住が増えています。それが地域の差別化につながるかもしれません。

『企業の構造変化』

（土屋） 終身雇用の意識があった（ある）日本の産業構造は変わりますか。

（鈴木） 終身雇用はもはや昭和の時代を連想します。これからはどこの会社でプロジェクトをいくつ経験したのか、といった積極的にキャリアを積み重ねスキルを高めていく時代になるでしょう。仕事のやり方も従来の部長・課長といった上下の組織ライン型から、社内や外部スタッフと連携して仕事を進めるプロジェクト型に大きく変わっています。それに伴い企業の組織の在り方や管理手法も変化するでしょう。

『社会の変化』

（土屋） 当協会の加盟施設会員は27件（2022年3月29日現在）に増加し、ドロップインやコワーキングスペースと形態は異なりますがさらに増加する傾向です。このテレワークは、ITを介しビジネス誘客やコミュニケーション醸成のツールとしての機能で、比較的容易に参入できます。国は一時期地方活性化の切り札として DMOを進め一時ブームとなりましたが、本質論を誤る事例がたくさん見られました。WFHもブーム化の危険もありますが。

（入江） 正に、WFHはこれからが正念場を迎えます。DMOは行政との関係性や経営ノウハウの不足などにより地域差が出ましたが、WFHは個人が主役で価値観の合う人とのコミュニティです。また、行政主導か民間主導かにより事業・継続性や品質管理に自ずから違いが出ます。そのような意味では、軽井沢は民間主導施設が主で、マネジメントやマーケティングの質の高さを感じます。

（鈴木） 別荘や二拠点居住の歴史から WFHとの関りが深く、起業家やその支援者の存在もあり、ビジネスマッチングによる創業機会も多い土地柄ですね。

『軽井沢のポテンシャル』

（土屋） 観光協会では 2014年に、歴史的経緯や規模も似通う先進リゾート「ダボス」と歴史的建築物やカフェ等をビジネス空間に生かす「チューリッヒ」の都市戦略を学んできました。これはテレワーク時代においても大変参考となる事例でした。二人から見た軽井沢の都市変化と今後の可能性は。

（入江） WFHは手段ですが、ライフワークやスタイルの可能性を秘めた土地であることは実感します。また、鈴木教授然り学術機関の関わにより、さらに深化することでしょう。

（鈴木） WFHは事業化や人脈形成を求める意識があればだれでも参入できる事業です。ライフスタイルにおいて自己実現欲求を満たす場所に軽井沢は相応しい場所です。一

方、日本の災害リスクは避けようのない事実で、企業の東京一極集中は投資家にとっての大きなリスクの判断基準ともなります。阪神淡路や東日本の大震災を経験して多少意識変化がありましたが実感としては不足しています。その中で個の単位が尊重される時代、企業価値は必然的に変わらざるを得ないでしょう。

『WFHの真価が問われる』

（土屋） 軽井沢観光協会は2011年、町関係団体と MICE（※3）を推進する「軽井沢リゾート会議都市推進協議会（KRCC）」を設立しました。ビジネス市場の開拓は、知的創造イメージによるブランド力向上、平日の稼働や季節平準化、滞在日数の増加や消費活性化に加え、開催ノウハウの蓄積と人的ネットワークの確立などが目的です。現在コロナ禍において MICE需要は停滞感が漂いますが、代わりに台頭してきたのが、働き方や生活スタイルの変化における WFHです。この WFHは、ITを介しビジネス誘客やコミュニケーション醸成のツール機能で、各施設においても MICEとは異なり比較的容易に参入できます。しかし、WFH環境が整えば誘客に結び付くかは企業努力によるところです。地域も同様で、テレワーク整備により利用や移住などが必然的に誕生するだろう、という考えは短絡的です。先ずは安定的な事業化を一義に、その地域特性による市場性の有無やコネクトマネージャーなどのソフト人材が可能性を広げます。さらに付加価値として、教育、福祉、医療、コミュニティーなどの社会インフラの充実も左右します。重要なことは、WFH使い、どのような“企業経営”や“まちづくり”をするか、に尽きます。

先人が「屋根のない病院」と謳った軽井沢を背景に、軽井沢観光協会では「標高1000mのウェルネスリゾート」をビジョンに掲げ事業を進めています。国内でも特異な自然や歴史・風土・文化により今日の上質なリゾートを形成してきました。そのような優位性の高い軽井沢では、近年の働き方や生き方改革で自己実現を目指す幸福感（ウェルビーイング）を提供できるかに尽きるかと考えています。

（※1）ワーケーション=ワークとバケーションを組み合わせた造語。非日常の土地で仕事を行うことで、生産性や心の健康を高め、より良いワーク&ライフスタイルを実施することができる1つの手段とされている。
（※2）DMO=観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。Destination Management Organizationの頭文字の略。
（※3）MICE=会議（Meeting）、報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語（ビジネスイベントの総称）。国の観光産業活性化主要事業でもある。

『テレワーク　スペース（例）』
◇ドロップイン=いつでも気軽に立ち寄れるワークスペース。
◇コワーキング=個人事業者、起業家、在宅勤務の会社員、ノマドワーカー等の場所の縛りが無い環境で働いている人のワークスタイル。一定のオープンスペースでの施設共有による経費削減、交流効果が期待される。
◇シェア（レンタル）オフィス=個室形態の傾向があり、契約形式による場所もある。

入江 真太郎 氏
（一社）日本ワーケーション協会代表理事。
長崎生まれ、同志社大学社会学部卒。阪急交通社、Discovery Real Japan勤務を経て、京都で協会設立。新潟、長崎、山口等のほか地域で自治体や市民団体、民間企業のアドバイザーも務める。

鈴木 幹一 氏
信州大学社会基盤研究所特任教授
東京生まれ。立教大学大学院卒、読売広告社、エステー取締役などを経て現職。他に、軽井沢先端学術センター副理事長、福井県立大客員教授も兼務。

Contents 2 毎月第3木曜日は、軽井沢リゾートテレワークデイズ！

毎月第３木曜日を「軽井沢リゾートテレワークデイズ」として、協会加盟施設の一部を無料開放しています。

テレワーク未経験の方でも実際にテレワークがどのように行われているか体験し、理解を深めていただく機会を提供しています。

2022年（令和４年）の開催予定は、下記のとおりです。
※開催予定日は変更になる場合がございます。

- 2022年６月16日（木）
- 2022年７月21日（木）
- 2022年８月18日（木）
- 2022年９月15日（木）
- 2022年10月20日（木）
- 2022年11月17日（木）
- 2022年12月15日（木）

詳細は、軽井沢リゾートテレワーク協会ホームページをご覧ください。https://karuizawa-work.jp

豊かなライフスタイルは軽井沢から始まる
軽井沢リゾートテレワーク協会

Contents 3 『Ruiza ちゃん！取材日記』

これであなたも「浅間ニア」!!
～浅間山麓一周　E－バイク の旅～

ASAMA AREA SIX

浅間山麓6エリア（軽井沢・御代田・小諸・東御・長野原・嬬恋）からなる「浅間山麓広域観光推進協議会」では、広域周遊促進策を講じることで、滞在時間の延長と観光消費額の向上を目指しています。

昨年度、広域プロジェクトの一つとして、E－バイクで走る浅間山麓一周（約90km）のサイクリングルートを設計しました。普段、目にできない田園風景（キャベツ畑など）の中を通り、高原の美しい風景やグルメを堪能し、１本のサイクリングルートで6エリアを繋げることができました。

〈コースMAP〉

●Eーバイクとは
特徴：①長い距離・広域移動　②山道も楽々　③老若男女問わず、体力差をカバー
ペダルの踏み込みが自然でダイレクトな推進力につながる電動アシスト制御。ペダルの踏込みに応じてアシストがダイレクトに伝わるため、キビキビと素早いアシスト感。　〈出典：asahi HP〉

今回のような長距離のコースであっても、幅広い層の方々に楽しんでいただけるアクティビティです。
中軽井沢駅から伸びる146号線の上り坂でも、アシストの力により笑顔でスイスイ登ることが可能。今後、各エリア発のツアーを企画し、ルート増設を予定しています。
ぜひ、皆様もE-バイクに乗りながら、浅間山麓の魅力を見て・食べて・学びながら「浅間ニア」を目指しましょう！！

事務局　市川 文愛

【公式HP】浅間山一周、6市町村の「遊・食・泊・学」情報配信中!!
https://takamine-resort.com/asamasix/

ASAMA　AREA　SIX

YouTube ★YouTubeよりE-バイク旅の動画もぜひご覧ください★
【ちゃり人】E-バイクで楽々、浅間山一周高原の旅
●前編：軽井沢・長野原・嬬恋編
●後編：東御・小諸・御代田・軽井沢編

Contents 4

委員会活動報告

第6回 軽井沢ウエディングアワード

KARUIZAWA WEDDING ASSOCIATION

グランプリ
軽井沢倶楽部有明邸　小相沢 なおみ さん

軽井沢ウエディング協会は2月22日、同協会加盟施設より選ばれた6人のウエディングプランナーが2021年度の結婚式のプランニングや想いをプレゼンテーション。当日はオンライン配信にて開催。グランプリの栄冠は軽井沢倶楽部有明邸　小相沢なおみさん。

軽井沢ウエディング協会学ぶ会　奥住 広臣

受章をうけて　家族の為に結婚式を決めた新郎新婦が、準備過程を楽しみながら「結婚式をする意味」に気づいていく、それが私自身の気づきにもなった経験をプレゼンしました。

結婚式実施率が低迷する今ですが「結婚式をするなら軽井沢」と自信を持ってお薦めします!

https://youtu.be/gY0RccQj1go

第7回 軽井沢WEB検定について

App Store からダウンロード　Google Play で手に入れよう

令和4年2月6日(日)、7日(月)第7回軽井沢WEB検定は80名が受験し、57名が合格しました。

軽井沢WEB検定は軽井沢のファンを作るだけではなく、更に軽井沢を好きになり、もっと良い町にしたいという気持ちが芽生えます。今後も検定を通して魅力を実感できる「まちづくり」につなげたいと考えます。多くの皆様の参加をお待ちしております。

軽井沢WEB検定は軽井沢ファンの証!ぜひチャレンジを!

	受験者数	合格者	合格率
1　級	4	1	25%
2　級	43	31	72%
3　級	33	25	76%
合　計	80	57	71%

⇧軽井沢 WEB 検定公式ラーニングアプリ

組織強化委員会　高見 康昭

軽井沢 WEB 検定で軽井沢を楽しんでもらいたい

今回の軽井沢WEB検定は、軽井沢観光協会1級保持者で問題選出を担当しました。

“こんなことを知ってもらいたい”“これを知れば楽しくなる”など、軽井沢の魅力に気づいていただける試験内容を検討しました。問題を考えることで、幅広い学びの分野が軽井沢にあることが改めてわかり、私たちも勉強になりました。軽井沢WEB検定を通じて軽井沢ファンが増えるといいなと思います。

事務局　新宅 弘恵

雲場池まで歩こうMap

軽井沢観光を代表する名所である雲場池。雲場池までどうすれば楽しんで歩いていただけるのか。考えた結果、タブレット端末を使用して手描きの風合いのある地図作りに挑戦しました。駐車場からのルートはQRコードを読み込んでいただくとGoogleマップで確認ができるようになっています。軽井沢の別荘文化を代表する歴史の道を歩けば、その先にある雲場池の美しさを一層楽しんでいただけるはずです。

『雲場池まで歩こうMap』
ダウンロード
⇩

制作者　観光案内所　山本 恵莉

訪れたい軽井沢のこんな場所、あんな場所

雲場池は軽井沢の観光名所のひとつで、春の芽吹き、新緑まぶしい初夏、夏の青もみじ、真っ赤に色づく秋、と四季折々の異なる美しい景色が水面に映し出され、人々は魅了されます。私がおススメする季節は冬、雪の日なら尚更です。しんしんと降り続く雪の日、湿った重い雪が積もり、木々に雪の花が咲いた朝。雪が降ると「写真を撮りに出かけよう」とわくわくします。冬にこそ訪れ、雪化粧した美しい雲場池を実際にご覧になってください。

今後も軽井沢の美しい景色や、町の様子、イベントなどもご紹介していきたいと思っています。

広報委員会　細江 久美子

軽井沢information

「美しい村だより」FM軽井沢で放送中！

毎週日曜日10:00～、FM軽井沢で放送中の「美しい村だより」。今年からパーソナリティが週替りで担当することになりました。写真は放送当初から担当を続ける宮尾パーソナリティ。軽井沢の四季を通して、イベントや観光協会の所属会員などの情報をご紹介します！

写真でつながる2021軽井沢フォトコンテスト 結果報告

今年度のテーマは「春・夏・秋・冬」でした。応募数は1,000点以上！全13作品が選ばれました。（作品は表紙と下記の通りです）ご応募頂いた皆様ありがとうございます。
2022年も開催を予定しております。詳細は公式Instagramアカウントをご覧ください。
（@karuizawaphoto.official）

KARUIZAWAPHOTO.OFFICIAL

後援社特別賞

「田んぼの仲間」
tuwufangxiao3

「夏木立」
mochimirin1

「父と娘」
017ah.23

「照葉耀く雲場池」
nozomizushi

軽井沢プリンスホテル賞

「秋色に染まる参道」
rumi_smile_cl

「浅間山がみえる」
mamemikami

「お年玉はアルプス」
shinsuke0307

「紅葉散歩」
leon2012papa

展示場所：軽井沢駅JR改札口（モニター展示）　期間：5月11日（月）12時～5月31（火）12時

Instagramでの開催に至った経緯

例年、数々の受賞作品を選出してきた軽井沢写真コンテストですが、プリント応募方式が続いていました。しかし、近年の SNS普及によりスマートフォンのカメラを使って日常や旅の写真を投稿する人が増えています。高度なフォトクオリティだけではない、どんな方でも軽井沢の写真を PRできる場を提供したく今回は Instagram内での応募、開催としました。入口を広げることにより応募数は今までの 10倍以上にも増加し、様々な軽井沢を Instagramを通して皆様に発信することが出来ました。とはいっても SNSに慣れていない方もいらっしゃいますので、応募方法などご不明点ございましたらいつでも観光協会スタッフによる説明をさせていただく所存です。軽井沢の魅力を今後とも様々な角度から発信していけたら幸いです。

事務局　掛川 礼央

GREEN BREEZE
軽井沢観光協会広報誌
No. 51
2022年4月発行
■発　行：軽井沢観光協会　■発行人：土屋 芳春　■編集責任者：小林 里恵
TEL:0267-41-3850　FAX:0267-41-3851
〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢 470-3
https://karuizawa-kankokyokai.jp